

3 学期始業式講話

おはようございます。そして、明けましておめでとうございます。

冬休みもあつという間に終わってしまい、本日から3学期が始まりました。

今年は、2025年、令和7年、干支で言うと巳年、へび年にあたります。皆さんの干支はどの動物ですか。へびは気持悪いという方もおられると思いますが、神の使い手であり、脱皮を繰り返しながら成長していく動物として、実は縁起のいい動物です。このため、成長のシンボルとして存在していますので、今年は皆さんにとっても成長の年としていただきたいと思います。

さて、2025年という区切りを考えた時に、私自身思い出すのは今から40年前の1985年、昭和60年という年です。この年私は教員に採用となりました。あれから40年の歳月が流れました。30年前はこの年の1月17日に阪神淡路大震災が起きました。また地下鉄サリン事件やオウム真理教事件とかなり大変な年でした。阪神淡路大震災ですと、昨年1月1日の能登半島地震を思い出します。昨年度の卒業生がこの時震災被害を受けましたが、こうした地震についての防災の話は度々しておりますので、今日は割愛いたします。

今日は80年前の1945年、昭和20年の年についてお話します。この年は何があったか皆さんご存じですか。日本が戦争に負けた年で、終戦の年になります。80年前ですから随分昔の出来事で、この年に生まれた方々、つまり戦争を知らない世代がとうとう80歳になったということです。皆さんは教科書を読んだり話を聞いているとは思いますが、私にとってはかなり関係のあることです。

それは私の祖父が中国で殺され、父親の兄である伯父がニューギニアで米国に殺されているからです。母親もまた戦争を体験しました。

祖父については以前お話したかもしれませんが、実は戦場で日記を書いている、この冬休みにその日記を解読して筆耕しました。読めば読むほど驚くことばかりで、そして泣けてきました。

日記によれば1937年7月7日に盧溝橋事件が起き、翌月8月14日の夜に祖父の家に召集令状、赤紙というやつですね。これが来ました。夜も12時ですから真夜中ですよ。電話もない時代ですから電報が来たわけですね。祖父はそれから静岡、広島、そして上海のコースで中国大陸に向かいました。その時私の母親は3歳で、父親のことを覚えていないですね。

祖父は上陸してから2年近く中国大陸を歩き、最後は機関銃に撃たれて亡くなりました。日記には上陸して2か月後にお風呂に入ったとか、人や馬が死んだとか、馬に蹴られたとか書かれていて、つらかったのは雨に降られたことなど細かく書かれていました。ああ、こんな大変なおもいをして最後死んでしまったんだ、とかわいそうな気の毒な思いで読みました。これを母親に見せたら大変興味深く読んでいました。戦死という言葉の後ろには殺され

たという事実があります。

母親は沼津市の西沢田という所で育ちましたが、昭和20年の時は12歳でした。この時に沼津湾にアメリカ軍が来て、艦砲射撃をして街を焼いたんですね。西沢田からは花火のように見えたとよく話をしてくれました。学校の近くに爆弾が飛来したとか、友だちが亡くなったとか、戦争が身近にあったことがわかりました。戦争の映画やテレビを見るたびに涙を流す姿もよく見ました。

つまり80年前の出来事は、私にとっては他人ごとではないということです。

なかなか戦争の話をする機会もありませんし、皆さんも身近な話ではないと思いましたが、今回披露させていただきました。

結びに、3年生まだ進路の決まらない方は、へび年にあやかって成就してください。

1、2年生もへび年にあやかって勉強に部活動に飛躍してください。よき1年間を過ごしましょう。以上で校長講話とします。 (令和7年1月7日、始業式)